



建築計画研究室

Architectural Planning Lab.

朽木 順綱

KUTSUKI, Yoshitsuna / Associate Professor

呼吸する楼閣 京橋における新卸売市場の提案

Research and Project on Possibility of a New Wholesale Market in Kyobashi Area

日本人が卸売市場向けのイメージはあまり良くない。生活に直結する市場は重要視されるべきだが敬遠されがちである。しかし、本来は主張されるべきではないだろうか。

近年、産地直送などのインターネットを活用した市場の拡張により卸売市場も減少しつつある。そこで何か変化が必要ではないかと考えた。

敷地はかつて淀川貨物線があった京橋の廃線跡地。現在は空地としてそのまま活用されず残されている。

そこで、問題視されるトラック輸送に対し、かつて主流であった貨物列車輸送を使用することで新たな糸口を再考する。

そして、京橋という地に新たな風景を作り出し、卸売市場の可能性を考える。



阿部 海斗

ABE, Kaito

若者の住処

Project of a Dormitory for 100 Students



少し外に出れば何でもそろう今だからこそ、学生の一人暮らしにとって家はより簡素になっている。ただの生活作業の場となり家に滞在する時間は減っているように思う。

そんな今のさまざまな学生たちが集まる若者の住処。ひとりひとりに与えられた部屋はベッドと少しのスペースだけ。ご飯をつくる、コーヒーを飲む、課題をする、ストレッチをする。そのためにはあちこち歩きまわらないといけない。住処にはわたしの場所が散らばっている。

ひとりひとりが自由に孤立しているようでなんとなく隣人の気配を感じられる、そんな学生の間に住む住居を提案する。塚本の近隣住居の大きさ形を意識し、表から見ると密集した周辺建物になじむように、裏に進むと若者たちの生活があふれ、町に若者たちが住み着いたように計画した。

五十嵐 実穂

IGARASHI, Miho



——私の心に街ができて—— 都市スケールから人間スケールへ

Creation of Inner Urban Scapes with Multiplication and Traversing of Scales of Human Activities

ここは心斎橋のとある街区。

大勢の人の通る道から一本細い道に入ると
街のもうひとつの表情が見えてきます。

表通りとは一味違う、街のリラックスした表情に
何故だか落ち着きと安らぎを覚えます。

そこは一人一人の心地よい粹組みが集まって
微かに共鳴していて
それぞれのそのままの波長が許される
そんな空間です。

「ここにいてもいいんだ」と思える場所は

あなたにはありますか。

それは誰にも気負うことなく

外の世界のどこからも触れられない

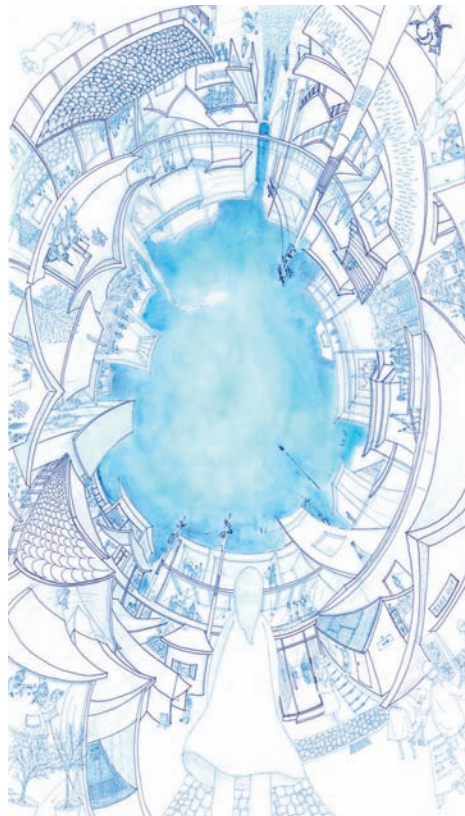
あなただけが知っている、心から求める場所のことです。

現実から続いたままの風景から

心の中に描いたイメージの世界へ。

より深く、より開けた場所に

この世界の果てがあるのかもしれない。



上山 美奈

UEYAMA, Mina

枚方宿場における町家型集合住宅 中庭空間を中心とした町家生活のリデザイン

Design of a Townhouse Apartment Complex in Hirakata Old Post-Town Area with Common Courtyards



枚方市の中心部に位置する岡本町。

そこは、東海道57次の内の1つである枚方宿場である。この土地には、昔の宿場町に比べて高い建物がたくさん建ってきている。

現在、枚方市は市駅を中心に都市化を目指し注目を集めようとしている。そんななかで、この岡本町は歴史的町並みを中心とした観光地として注目を集めるエリアになっている。

そこで町家型の集合住宅を設計する。町家を増やすことで、現在ある高い建物や駐車場をなくし、表通りには昔ながらの町並みを再生される。

そして、表通りから見えないところでは開放的な空間になっており、景観に悪影響を及ぼすことなく、快適な空間が作られる。

表と裏をつくり、高さのある建物や駐車場など、景観に悪影響を及ぼすものを隠し、表通りの町並みの改善を図る。



内山 大志

UCHIYAMA, Taishi

MITI ミチ

Project of Traveling Exhibition of My Artworks as a Skateboarder

小学生からスケートボーダーとしての活動を続けてきた。10年を超えたスケートキャリアの中、それと同じく絵の作品制作も重ねてきた。今回初の個展を開催した。

展示会場は日常的に通っているカフェやスケーターがオーナーのギャラリーなどゆかりのある場所、金沢市、南大阪、東京、大阪市のそれぞれ異なった4ヶ所。展示物はスケーター友達を描いた人物画が中心、絵を通して人と人のコミュニケーションそしてその場所とをつなぐことを重要視した。これからも続くスケーター人生にもう一つのミチが現れた。



熊谷 一聖

KUMATANI, Issei



The Second Life of Horses 淀に建つ競走馬リトレーニング施設

Design of an Institute for Retraining of Retired Racehorses in Yodo Area



競走馬となるべく、毎年7000頭生まれるというサラブレッド達。

華やかな舞台の一方で、事故やケガにより引退を余儀なくされる馬は年間5000頭に上るといいます。多くの命が人知れず失われているという事実があるのです。しかし、経済動物として生まれた馬達は人間と共存していくしかありません。

私は馬達が人間社会に貢献できる方法はないかと考え、ホースセラピーに辿り着きました。ヨーロッパを中心にホースセラピーというリハビリテーション療法が盛んに行われています。ホースセラピーは乗馬、あるいは馬の手入れ、馬の飼養管理などを通じて、障害者の精神機能と運動機能を向上させ、社会復帰を早めるなど心身両面への直接的セラピー効果が認められているといえます。

走るために生まれた競走馬たちをリトレーニングセラピー馬として命の危機に脅かされることなく、馬として皆に愛されながら「第二の人生」を送れるような居場所を作りました。



中西 武

NAKANISHI, Takeru

領域を越える テリトリーを混在させた新たな少年更生施設の創造

Inquiring into a New Juvenile Reformatory with Transbordering and Interlocking Territories

高い塀、鉄格子で囲われた建物に隔離することが
社会復帰に繋がるのか。
社会から切り離すことが復帰への道を
閉ざしてきたのではないか。
これから先、長い未来がある少年も
家庭環境や人間関係の弊害で収容される。

外の世界と中の世界が曖昧に繋がる新たな少年更生
施設を創造する。

敷地は建物の老朽化で廃止された宇治少年院の跡地。
観光地の宇治駅から近く、寺やスポーツ施設、公園など、
豊かな環境の中にある。

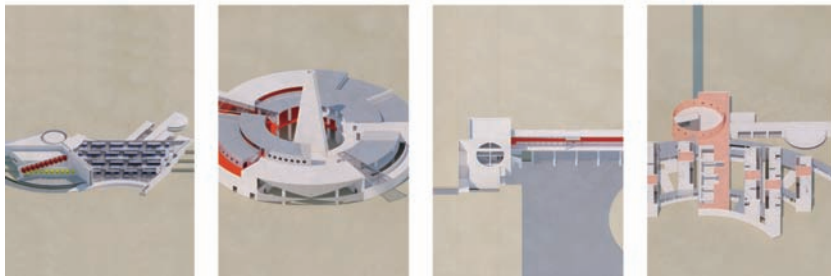
2つの世界を繋ぐ役割としてアーティスト・イン・レジ
デンスを配置する。現在の少年院での問題である、専門
教科の役員不足を補うと共にアートセラピーの効果を期待
する。ものづくりを行う職業訓練も特別なものになる。

様々な場所で様々な領域が交わる建築を提案する。



中村 健太

NAKAMURA, Kenta



夢洲ベイサイドリンク 大阪国際サーキット

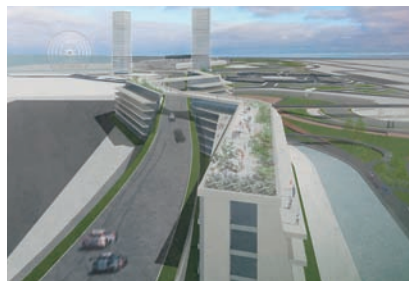
Project of "Yumeshima Bayside Ring" Osaka International Circuit



モータースポーツ。アイルトン・セナやミハイル・シューマッハといったトップドライバーのスピードに魅了されたように多くの選手が活躍し、幾多のドラマが紡がれてきた。F1や国内最高峰自動車レースSUPER GTは今や世界的に有名である。

しかし日本でモータースポーツは、サーキットには膨大な敷地が必要であるため郊外に作られることが多く、交通網が発達していないためアクセスしづらい。その問題を解消しクルマ好きにはもちろん、たくさん方にモータースポーツの素晴らしさを知ってもらうためのサーキット施設「Yumeshima Bayside Ring」を大阪—夢洲に設計した。

施設全体をクルマで巡ることができ、クルマと共にレース観戦をすることができる。クルマと泊まれるホテルのベランダからは目の前を時速300km/hのF1マシンが駆け巡ったり、ブリッジでは自分たちの足元をレースカーが走り抜けていく興奮。モータースポーツというものにより身近なものになれば……。



平岡 竜也

HIRAOKA, Tatsuya

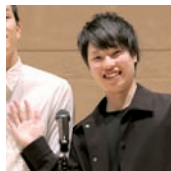


都市の居場所 50の共有パターンをあわせもつ複合空間

Design of Personal Urban Places Consisting of 50 Sharing Patterns

共有といえば、物や情報をイメージする 경우가多いが、日常の中で間接的、心理的な事例においても無意識に人々と共有される。人との交流を大切にしたい、活気ある生活を送りたいといった人がいれば、プライベートを大切にしたい、自分だけの時間を充実させたいといった人もいる。多くの人々が集まり、行き交う都市の中で、日常の共有はどれほどの影響を与えるのかを考えた。

そこで、光や音、環境などの身近な共有から、感情や恐怖、見え方といった特殊な共有までピックアップし、50の共有パターンを都市の中にあわせもつ複合空間を形成する。また、その中から用途別に共有パターンを取り入れ、空間で表現した。それぞれの居場所を体感するとともに、日常での共有は何がどれほどの影響を与えるのかを再認識させる。



松本 淳

MATSUMOTO, Atsushi

空中都市

Project of a Floating City for 500 People

ジブリの天空の城ラピュタを見たときに感じた高揚感を現実で体感する建築を作れないか。そこでバックミンスターフラー考案のcloud nineという浮遊都市計画を参考に、実際に空に浮かぶ都市を設計する。

cloud nineの用途の効率をさらに上げるためにヘリウムガスを利用する。5つの浮遊物をつくり、それぞれに用途を与える。住居専用を2つ、農業を行う農園を1つ、生き物を扱う牧場を1つ、経済が回る中心街を1つに分ける。

cloud nineの形態を参考に、全体の形は球体がベースであり、そこに都市に必要な用途をもたせ、空中での暮らしを可能とする計画をした。



吉山 直樹

YOSHIYAMA, Naoki

